



新茶のおいしさに笑顔 第14回平家いずみお茶まつり



▲昔ながらの手炒り釜を体験

6月2日、泉運動広場で第14回平家いずみお茶まつりが開催され、新茶を買い求める人などでにぎわいました。

会場では特産品の販売や泉茶のおもてなし、野点などがあり、お茶の手炒り釜体験をした参加者らは「香りがとても良く、飲むのが楽しみ」と笑顔で話していました。ステージでは品評会で上位に入賞したお茶のオークションが行われ、またイベント広場では地元の八代農業高等学校泉分校の生徒らが演じる源平合戦絵巻が披露され、来場者も盛り上がりを見せました。

理科の授業に役立てて メダカを市内小学校に寄贈



▲メダカに興味津々の児童たち

5月28日、YKKAP九州製造所が文政小学校にメダカ50匹を寄贈しました。

これは、同社の地域貢献・環境教育の取り組みの一環で、今年で10年目です。今年は文政小学校を含む5校に計250匹が贈られました。

この日は同社の社員が在来種のメダカは絶滅危惧種であることや外来種との違いについて説明を行い、児童たちにメダカを手渡しました。同社の中野正剛室長は「メダカの飼育を通して、地域の環境を守る子どもに育ってほしい」と話しました。

日本を代表するクルーズ船 につぼん丸寄港



▲秀岳館高校雅太鼓部の演奏に見送られながら出港したにつぼん丸

5月28日、につぼん丸（2万1903トン、全長166.65メートル）が八代港に寄港しました。今回は八代港発着で、2泊3日の行程で奄美大島を旅するツアーです。

出港セレモニーで中村博生市長が「日本を代表するにつぼん丸に寄港していただきうれしく思います」と歓迎すると、村上寛船長は「今後も八代港に寄港していきたい」と意欲を示しました。ツアー客を乗せたにつぼん丸は、秀岳館高校の雅太鼓の演奏に見送られ八代港を後にしました。

イタリア・ベニスの街を再現 客船コスタ・ベネチア初寄港



▲コスタ・ベネチア

5月21日、クルーズ客船コスタ・ベネチア（13万6000トン、全長323.6メートル）が八代港に初寄港しました。同客船は今年3月に竣工されたばかりの最新のクルーズ船で、中国・上海を出港して博多港を巡り、八代が最後の寄港地。約4000人の乗客らは寄港後すぐにバスに乗り込み、県内の観光地へ赴きました。

船内では歓迎セレモニーが行われ、ジュリオ・ヴァレストラ船長は「温かいおもてなしで歓迎していただきありがとうございます。今後も寄港していきたい」と話しました。

環境問題への意識向上に 次世代のためにがんばろう会が冊子を寄贈



▲次世代のためにがんばろう会の皆さんと中村市長

5月20日、次世代のためにがんばろう会の松浦ゆかり代表らが市役所鏡支所を訪れ、冊子「くま川河口に棲むいきもの」を中村博生市長に手渡しました。この冊子は、イラストや写真を使って球磨川河口に生息する生き物や八代海・球磨川のごみ問題などを紹介しています。

中村市長が「子どもだけでなく大人も環境について考えられる内容だと思う。貴重な冊子を寄贈していただき、ありがとうございます」と話すと、松浦代表は「ぜひ小学校の授業で使ってほしい」と話しました。

安全な通行と交通事故防止 春の全国交通安全運動出発式



▲市内パトロールに行くパトカー隊の見送り

5月13日、春の全国交通安全運動の出発式が、氷川機動センターで行われました。

式には、八代市、氷川町の関係者や交通関係団体約150人が出席。國津剛八代警察署長が「交通事故の怖さを運転者だけでなく、全ての人が理解し行動することが大事」とあいさつすると、中村博生市長は「交通ルールの遵守、正しい交通マナーの実践など、一層の啓発活動を行いたい」とあいさつしました。その後、関係者が見送るなか、白バイやパトカーなどが市内各地のパトロールに出発しました。

歯と口の健康で病気予防 やつしろ歯の祭典



▲お口の中を清潔に

6月8日、やつしろハーモニーホールと八代歯科医師会口腔保健センターの2会場でやつしろ歯の祭典が開催されました。

やつしろハーモニーホールでは、小学生図画・ポスターコンクールの表彰式が行われ、八代市賞の池松小遥さん（昭和小学校6年）をはじめ、入賞者8人が表彰を受けました。高齢者よい歯コンクールでは、歯と口腔の健康状態が整っているとして、霞岡ヨシノさんが表彰されました。

会場内では、多くの親子などが、歯と口の健康について熱心に学ぶ姿が見られました。

鍵かけを忘れずに ロックの日 防犯啓発キャンペーン



▲鍵かけを呼び掛ける参加者

6月7日、新八代駅で八代白百合学園高校の生徒や地域住民の防犯ボランティア団体、県警職員ら19人が駅利用者に鍵かけの励行を呼び掛けました。この活動は盗難被害の防止、施錠習慣の定着を図ることを目的とし、6月9日がロックの日であることになちみ毎年この時期にキャンペーンが行われています。

呼び掛けを行った下田和伸さん（八代白百合学園高校3年）は「これからも自転車の二重ロックなど鍵かけを忘れずに行っていきたい」と話しました。

甘さ控えめで毎日飲める甘酒 新商品もち麦入り「福の甘酒」発売



▲ホテル大黒屋の皆さんと中村市長（右から3番目）

6月5日、ホテル大黒屋の店主、福岡一郎福岡建設代表取締役社長ら6人が市役所鏡支所を訪れ、「福の甘酒」の発売を中村博生市長に報告しました。

この「福の甘酒」は腸内環境を整えるスーパー食材として注目されているもち麦を使用した、ノンアルコールの甘酒です。

福岡代表取締役社長は「甘酒が苦手な人でも飲みやすいので、ぜひ多くの人に飲んでほしい」と話すと、中村市長は「甘さが控えめでおいしい」と称賛しました。

地元を楽しむ 第34回ふる郷愛鏡祭



▲畳を投げる参加者

5月26日、市役所鏡支所一帯で第34回ふる郷愛鏡祭が開催され、多くの人が訪れました。

来場者は鏡中学校吹奏楽部による演奏や鏡町の郷土芸能、芝口棒踊りなどを楽しんだり、愛鏡ボテの芋掘り、鮎やウナギのつかみ取りなどのイベントに参加しました。

恒例の畳投げ大会では抽選により選ばれた30人が出場し、小学生以下、一般女性、一般男性の部に分かれ、畳を思いっきり投げて飛距離を競いあう姿に観覧者から大きな声援が飛んでいました。

戦争の惨禍を二度と繰り返さない 八代市戦没者追悼式



▲追悼の辞を述べる中村市長

5月21日、八代市戦没者追悼式が、やつしろハーモニーホールで行われました。

式には、中村博生市長、関係団体の代表、遺族など255人が参列し、先の大戦における戦没者に対して追悼の誠をさげました。

高野壽賀雄八代市遺族連合会会長は「英霊の尊い犠牲の上に、今日の平和があることを忘れてはいけない。英霊の遺志を継承しながら八代の発展のために尽くしたい」と追悼の辞を述べました。その後、参列者による献花が行われました。

捕獲した鹿を有効活用 東陽町産鹿皮名刺入れ贈呈



▲中村市長と鹿皮クラフト倶楽部の皆さん

5月21日、東陽町まちづくり協議会「鹿皮クラフト倶楽部」の赤崎鐵男代表らが市役所鏡支所を訪れ、捕獲した鹿の皮で作られた名刺入れを中村博生市長に贈呈しました。

この名刺入れは、東陽町での鳥獣被害対策の狩猟により捕獲された鹿の皮から手作りで製作したもので、名刺入れのほか、ペンケース、手帳カバーなど7種類の製品があります。

名刺入れを受け取った中村市長は「これらの製品が東陽町の新しいブランドとして育つように市としても支援していきたい」と話しました。